



令和7年度 さいたま市立土呂中学校 学校だより

# 見沼のほとり

第 2 号  
令和7年4月30日

学校教育目標 主体的に生きる人間の育成 《意欲・健康・豊かな心》

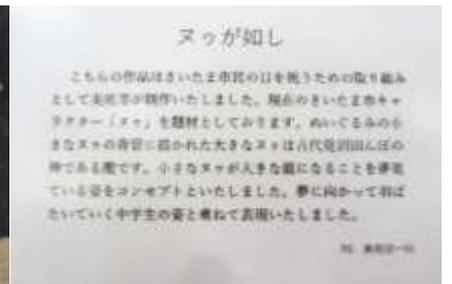
## 新たな発見と期待

校長 金子 慎一郎

新年度の授業がはじまり、グラウンドから3年生が新体力テストの持久走に取り組んでいる声が聞こえてきました。短い春の季節の中汗をかきながら走っている姿は、学年が上がるにつれてたくましく感じます。中学校に入学してから体の成長に伴い持久力も身に付けてきた証だと感じます。5月23日(金)には体育祭を予定しており、計画的に準備が行われています。本年度はさいたま市の市長選挙の関係もあり平日開催となりますが、ご都合がよろしければ生徒の活動をご覧になっていただきたいと思います。



さて、話は変わりますが、5月1日はさいたま市民の日です。令和3年3月に市民が、郷土である本市の歴史や文化に親しみ、市民としての一体感とまちづくりに自ら参画する意識を高め、魅力ある本市を将来にわたって創っていくことを期する日として「さいたま市民の日」が設けられました。本校では、昨年「さいたま市民の日」をテーマに美術部の生徒が段ボールアートを作成し、昇降口に掲示をしています。



また、さいたま市のサイトでは「さいたま市民の日」について紹介しています。土呂中学校の近くの「市民の森」でも5月3日、4日に「花と緑の祭典2025」も開催されます。野菜・植木・花き・洋ランなどの販売等が行われますので地域のイベントとして出かけてみてはいかがでしょうか。

ところで、今年は3年生の修学旅行で京都だけではなく、初日に大阪・関西万博にも行く予定です。大阪・関西万博は、2005年に開催された愛・地球博に続き、20年ぶりに日本で開催される国際博覧会です。「持続可能な開発目標(SDGs)達成への貢献」、「日本の国家戦略 Society5.0の実現」を目指しており、大阪・関西万博は、SDGsを2030年までに達成するためのプラットフォームになります。ここでの参観が、本校で取り組んでいる「生きる力を育むさいたまSDGs」の取組にも活かされることを期待します。

さらに万博の歴史を振り返ってみると、1970年に日本初の万国博覧会が開催され、当時のシンボル・タワーであった「太陽の塔」を見たことがある方がおいででしょう。花の都パリに美しくそびえ立つエッフェル塔は、1889年にパリで開かれた万国博覧会の時に建設されたものです。その5年後の1975年に沖縄で万国博覧会が開催されました。その後、1985年に筑波で開催され、1990年に大阪国際園芸博覧会があり、2005年に愛知で「愛・地球博」として話題となりました。今から20年前の出来事ですので、万博自体を知らない人が多くなっています。この機会に、人類が築き上げてきたその時代の技術・芸術の頂点を世界に向かって発信している博覧会を楽しんでもらいたいと思います。

